

ウガンダ ナイル架橋で閉合式



今秋の開通を目指している

設計・監理＝オリコンサルグローバルJV 施工＝銭高組JV

日本政府の有償資金協力（円借款）によるアフリカ・ウガンダの「ナイル架橋建設工事」の主桁の中央閉合に伴う閉合式が4月27日、現地のジンジャラ県で開かれた。オリエンタルコンサルタンツグローバル・エイト日本技術開発・PECEJVが架橋位置の検討を含む実現可能性調査から詳細設計・施工監理、銭高組・現代建設JVが橋梁架設から取り付け道路などの施工を担当している。

式典は、モニカ・アズバ・ンテゲ公共事業・運輸大臣、亀田和明ウガンダ駐節特命全権大使、国際協力機構（JICA）の深瀬豊ウガンダ事

務所長、オリエンタルコンサルタンツグローバルの米澤栄二社長、銭高組の織田洋常務執行役員土木事業本部長など、関係者を含め約150人が出席した。

現地は、隣国のケニアやコンゴ民主共和国、ルワンダなどを結ぶ北部経済回廊上に位置し、内陸国である



閉合式後のレセプションで。左から米澤社長、ンテゲ大臣、亀田大使

ウガンダの物資輸送にとって極めて重要な地域。ただ、ナイル川に架かる既存橋は片側1車線で交通量の増加に伴う渋滞が発生していることに加え、老朽化に対する補修が困難なことから、新橋を建設することになった。

ウガンダ初の斜張橋となるナイル架橋は、橋長525メートルの3径間連続斜張橋で、主塔高約80メートルの一面吊り構造となっており、コンクリート主桁の斜張橋としてはアフリカ全土で最大級、かつ東アフリカ最大の支間長を持つ長大コンクリート斜張橋となる。

今後、斜材ケーブルの張力調整や舗装などの橋面工、取り付け道路工事などを経て、今秋の開通を目指している。